

# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成23年6月13日（月）～6月19日（日）〔平成23年第24週〕の感染症発生状況

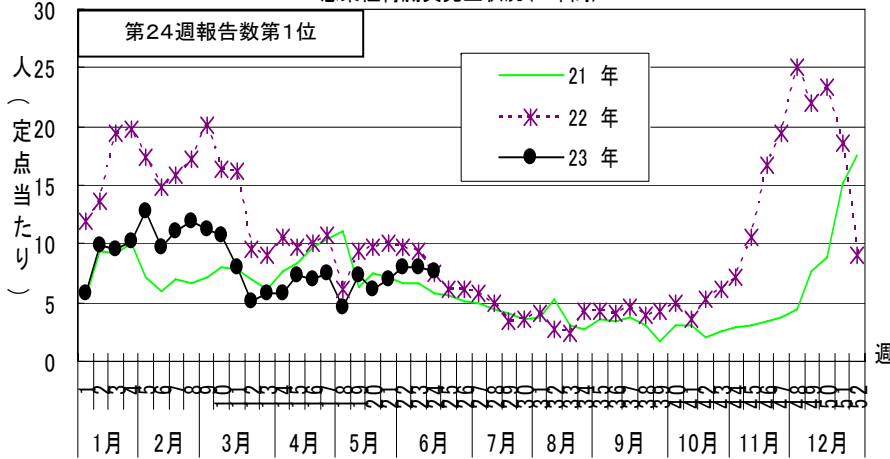
第24週で定点報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3)水痘でした。

感染性胃腸炎は定点当たり7.73人と前週（8.06）より患者報告数はわずかに減少していますが、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。

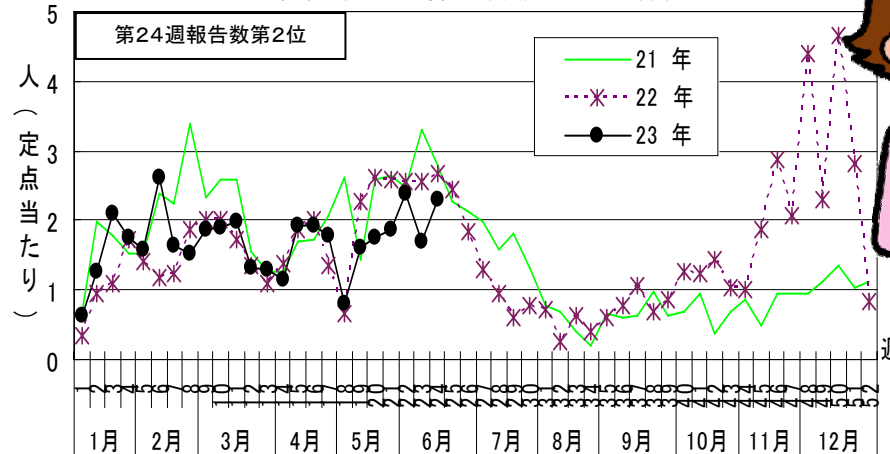
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は定点当たり2.30人と前週（1.69）より患者報告数は増加していますが、例年よりも低いレベルで推移しています。

ヘルパンギーナは定点当たり0.47人と報告数はまだ多くありませんが、流行の兆しが見えているため今後の動向に注意が必要です。

感染性胃腸炎発生状況(3年間)



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎発生状況(3年間)



## 夏かぜ到来！？～ヘルパンギーナに流行の兆し～

例年よりも遅い時期となりましたが、全国的また川崎市において、ヘルパンギーナの流行の兆しが見えています。グラフのとおり、7月のピークに向けて、今後患者報告数が増加することが推測されますので、発生動向に注意するとともに感染予防対策等を徹底しましょう。

### ヘルパンギーナってどんな病気？

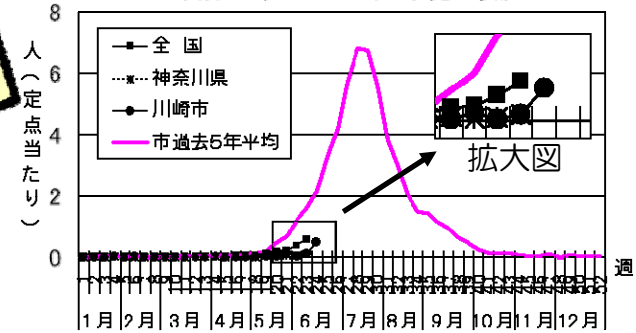
ウイルスによっておこる「夏かぜ」の代表疾患の一つです。4歳以下の子どもに多く発症します。

発熱とのどの痛みが特徴で、のどの奥の方に小さな水疱が数カ所でき、やがて小さな潰瘍となって、飲食のとき痛みます。十分な飲食ができず脱水状態にならないよう水分補給に注意してください。

発病から1週間もすれば飲食時の痛みは楽になります。通常は、一週間以内に治りますが、まれに髄膜炎を併発することがあります。

発熱・頭痛・嘔吐がひどいときや水分が十分にとれないときは、早めに医療機関を受診しましょう。

平成23年ヘルパンギーナ発生状況



### ヘルパンギーナ対策は手洗いの徹底！！

ウイルスに感染してから症状が出るまでの潜伏期間は通常2～4日です。感染経路は飛沫感染のほか、のどや鼻の分泌物あるいは便の中のウイルスが、手などによって、口や鼻の中に運ばれて感染することがあります。最もウイル

- 量が多く感染しやすいのは、発症前日から数日までの期間です。
- 効果的な予防法は、患者やその周囲の人たちが手をよく洗うことです。患者の便からは、症状がなくなっても、一か月ほどウイルスが出ている可能性があるため、特に患者のおむつを替えた後などは、ウイルスが付着する可能性があるため、よく手を洗いましょう。また、患者のタオルの共用は控えましょう。

